



感情を表す動詞の分類と特徴(二〇〇八年度卒業論文 要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長澤, 宏美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007319

感情を表す動詞の分類と特徴

日本語学研究室 四四一八 長澤 宏美

本研究は、感情を表す動詞(感情動詞)を補語のとり方によって六つに分類し、それぞれの特徴を考察することを通して、感情動詞の性質を明らかにすることを目的とした。

感情動詞の「補語のとる格(ヲ格/ニ格)」及び「補語の名詞(句)の抽象度(抽象度の高い名詞(句)をとるもの/具体度の高い名詞(句)をとるもの/抽象度の高い名詞(句)と具体度の高い名詞(句)を両方とるもの)」に基づいて分析を行った。

「楽しむ、好む、尊ぶ」などの「ヲ格をとる/抽象度の高い補語」に分類される感情動詞は、行為や概念を表す補語を多くとり、具体的な人物をとりにくいこと、「憐れむ、悔いる、恨む」などの「ヲ格をとる/具体度の高い補語」に分類される感情動詞は、感情主と直接関係のある具体的な人物・出来事を表す補語を多くとることなど、六分類の特徴について考察した。

その結果、補語にとれる名詞(句)の抽象度の幅の広さは感情動詞自体が持つ意味の広さと関係していること、感情動詞の感情主と補語との関わりが抽象的なものは補語の抽象度が高く、感情主と補語との関わりが具体的なものは補語の具体度が高いこと、感情の対象を表す「ヲ格をとる感情動詞の補語」の方がより抽象度が高く、感情の誘因を表す「ニ格をとる感情動詞の補語」の方がより具体度が高いことなどが明らかになった。